



# 志木二小だより

平成29年 9月号

志木市立志木第二小学校  
埼玉県志木市館1丁目2番1号  
電話 472-0540

//// 学校教育目標 **進んで学ぶ子 心の豊かな子 体をきたえる子** //

児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	たんぽぽ	8/29現在	昨年同時期
	75	80	84	101	86	88	14	527名	538名

～ **祝50周年** いままでも これからも Now nor ever ～



## 自分で判断して、よりよい行動ができる子に

校長 安田 一也

楽しかった38日間の夏休みが終了しました。あちこちの教室から笑い声や話し声が聞こえ、再び学校に活気が戻ってきました。事故もなく、全員そろって二学期を迎えることができ、教職員一同たいへん嬉しく思っております。夏休み中の家庭や地域でのご指導やご支援ありがとうございました。また、7月29日(土)に実施した50周年サマーフェスタでは、児童及び保護者をはじめ、地域の皆様方にも大勢ご来校いただきありがとうございました。バザー品の提供やイベント等へのご協力にも重ねてお礼申し上げます。

さて、東京五輪2020が3年後に迫ってまいりました。

去る7月24日、各新聞社が『東京五輪3年後の本日、開会式』と見出しをつけて報じたこの日、スポーツマンシップを象徴する出来事がありましたので紹介します。それは、悲願の全国制覇を果たした花咲徳栄と互いに県高校野球界を牽引し合う浦和学院対春日部共栄の県予選準決勝の試合です。4回、強打の浦和学院打線に対し、力投を続けていた大木投手の左ひざに打球が直撃、マウンドに倒れこみます。すぐに浦和学院の3塁コーチの赤岩主将らが、すかさずマウンドに駆け寄り、コールドスプレーで患部を冷却、大木投手を起き上がらせ、ベンチ前まで肩を貸したという話です。スポーツ紙は、「友情の応急処置、打球直撃の相手に駆け寄る敵味方関係なく」と報道しています。試合後、赤岩主将は「痛がっていたので、敵味方関係なく気を配った。」と取材に答えています。

(財)日本体育協会は、「フェアプレイで日本を元気に」をスローガンにフェアプレイ精神を広めています。「スポーツの場面に限らず日常生活でも、自分の考えや行動について、よいことか悪いことかを自分の意志で決められること。自分自身に問いかけたときに、恥ずかしくない判断ができる心のこと。」と本協会はフェアプレイ精神を定義し、キャンペーンを展開しています。

まさに、敵味方関係なく赤岩主将がとった、とっさの行動はフェアプレイ精神を身をもって示してくれたものだと思いました。

本日から2学期が始まります。めざす児童像の一つ「集団の一員としての自覚を深め、行動できる子」の具現化のため、誰が見てもよいと思われる行動を集団生活を通して培ってまいります。今学期もよろしくお願いいたします。